

とちぎサテライト情報局(9月16日) 塾長出演

NHK宇都宮放送局

パーソナリティー 山上和美さん

プロデュース 水谷彰宏さん

水谷： グロリアエステファンの曲をかけましたが毎日聴いていますか。

林： 毎日車の移動中に聴いています。

水谷： 今朝も東京からいらっしゃたということですが。

林： 昨日の夜 10 時過ぎまで勉強会があったので。今日はこの後、足利の本部に戻り、会議に参加し、その後、3 時から東京経済同友会の研究会に参加して、その後、国際大学の情報発信機構の勉強会に参加して、足利に戻ります。

水谷： その一日をスタートさせるのが、グロリアエステファンの曲ということですね。

普通は学習塾ということで、どうしたら勉強ができるようになるかという話をお聞きするところですが、今日は経営者の立場で、話をお聞きしていきたいと思います。

会社の概要をお聞きしたいのですが。今年の 2 月に 2002 年度の栃木県経営品質賞、中・小企業部門の県知事賞をお受けになったと聞いておりますが。これはどういう賞で、どんなことが評価されたのですか。

林： この賞は、アメリカの国家経営品質賞の日本版が日本経営品質賞というのですが、その栃木県版です。①顧客重視、②独自性を持った商品を開発やサービス、③雇用を維持するという意味で、従業員の方の仕事能力を最大限に高めて、色々な権限を維持していくこと(社員重視)、④社会との調和、という 4 つの基本理念があります。

その基本理念にどれだけ近づけたかという評価の仕組みがあり、それに挑戦させて頂きました。まだ不十分でしたが頑張りました。

水谷： 「開倫塾」字で書くと「開く」「倫理の倫」。できましたのが 1979 年 4 月ですから昭和 54 年。林さんが総業されたのですね。どういう気持ちでこの塾をつくられましたか。

林 : 大学の時に犯罪学をやっていた関係で刑務所や少年院に何十ヶ所と行かせて頂きました。職員の方々から「家庭や学校で一生懸命勉強していれば、こういう所にこなくてすむ人がほとんどである。」ということを知ったのが1つ。それと、慶應義塾大学卒業後、8年間研究室に残り司法試験の勉強をしていて、その間、予備校や塾の先生、また家庭教師もしていたので、自分のできることは学習塾しかないと思い、はじめました。

水谷 : 昭和54年、出身地の足利ではじめられましたが、現在の生徒数は。

林 : 5200名位です。年末になると6000名近くになると思います。

水谷 : 年間の売り上げは。

林 : 13億弱(今年は14億弱)。

水谷 : スタートはどれくらいの規模でしたか。

林 : 最初は70名でした。広さは8畳、6畳の部屋のある長屋を借りました。

水谷 : 現在の規模は、県内に何校位あるのですか。

林 : 全部で40ヶ所位です。

水谷 : 昭和54年から25年ほどたち、ここまで拡大してきたことについてどう思いますか。

林 : 歩みが遅く十分なことができなくて、毎日反省しています。もっともっと充実したことができたはずなのに私の勉強が足りなくて、今までの生徒さんや保護者の方、職員の方に申し訳ないと思っています。

水谷 : これで歩みが遅いのですか。

林 : もっときちんと勉強していれば、中身の濃いことができたと思います。反省しています。

水谷 : 開倫塾というのはさきほど御紹介したように「開く」に「倫理の倫」、これはどういう意味からですか。

林 : たまたま高校の時に倫理社会が好きで、大学の時には哲学が好きで、法哲学などをやっ

たので、自分にはできないことですが、目標だけは高く持とうということで、倫理を開けるような人としての尊厳を守れるようなことを理念にやっていきたいと思いました。

水谷： そうなりますと、受験を突破することや成績を上げることだけではなくて、そういう倫理面も重視されているわけですね。

林： そうですね。教えるだけではさびしいので、規範教育というものを受験勉強に差し支えのない範囲でさせていただいています。あくまでも基本は受験勉強や学校の補習ですが。

水谷： バランスなんですね。経営者として、林さんの立場からすると社員の皆さんにもそういう教育の充実を考えていらっしゃいますか。

林： 研修や採用は大変厳しいですが、一生懸命やっています。教え方日本一になりたいと頑張っています。ただ理想とはまだまだかけ離れていますが。

水谷： 常に目標を高く持たれているんですね。

林： 目標だけは高く持たないとすぐ崩れてしまいますから。

水谷： 昭和54年当時と現在とでは受験産業をとりまく環境が大部変化してきたと思いますけれど。

林： お子さんが少なくなりました。しかし、助かるのは良い先生がたくさん入社してくださることです。

不況で仕事が少ないので、昔と比べて良い先生が入社してくれるようになりました。これだけは、はっきりしています。昔の先生が悪かったという意味ではないですが、今は良い先生が本当にいっぱいいます。大学院卒業の優秀な方が3分の1います。

水谷： 林さんご自身が受験していた当時と大部状況が違うと思いますが。

林： 今のお子さんは本当によく勉強しますね。先生方も熱心ですし、保護者の方も熱心です。学力はついていきますね。

水谷： 倫理面では、今のお子さん達はどうか。

林： 倫理面も素晴らしいのではないですか。犯罪現象(長崎事件)などいろいろありますが、それはめずらしい話で、今の子は昔の子と比べて経済的にも豊かで、素晴らしい教育を受けたり、習

い事をしたり、情緒教育も受けています。さらには学校の先生も一生懸命やっていますので、きめこまかい教育を受けています。ですから感性がものすごく豊かです。あと、倫理面や規範面でも、非常に良く育っているお子さんが多いと思います。ただ、だれからもそういうことを教えてもらえないお子さんもいると思いますので、そういうお子さんには気が付いた方が教えて下されば良いと思います。

水谷： 開倫塾で教える立場からすると、色々な面を子供達に教えているというわけですね。

林： そうですね。「くつをそろえよう。」など、毎月1つの項目を決めて取り組んでいます。「くつをそろえよう。」から始まって、6月は「新聞を読んで物事を考えよう。」毎日1時間新聞を読むようにしようということでした。

水谷： 後半は、忙しい中、色々な立場で会議に出ていらっしゃるの、栃木県経済の活性化や経営者の資質とは何かというお話をお伺いしたいと思います。

林： 大事な話なので是非聞いていただきたいと思います。

水谷： その前に林さんからのリクエストでチェックーズの「ギザギザハートの子守唄」ですが、これは何故ですか。

林： 作詞家の売野まさお君が足利高校の時の同級生で、仲良しでしたので。

水谷： 栃木県の経済の活性化のための提言をお伺いしたいのですが。

林： いっぱいありますので、いっぱい聞いて下さい。

水谷： いっぱいあるということですが、例えばどういうことですか。

林： 一番大切なのは、赤字企業の方に黒字企業になってもらうこと。構造改革というのは、7～8割の赤字企業を黒字にすること。経済の担い手は経営者ですから、企業が頑張らなくてはなりません。私も一生懸命頑張っています。ですから、皆さんも頑張ってください。特に経営幹部の方。

水谷： 林さんからみて、経営幹部の方に足りないものは何ですか。

林： やる気です。それと勉強が足りないです。経営の勉強が足りない方が多いですね。

水谷： トップに立つ人の資質というか、こういう人がむいているというのは、林さんからみてどういう人ですか。

林： やる気がある人ですね。会社を引っ張っていかうとか、雇用を守ろうとか。景気が悪いからといってリストラしてしまうのはとんでもない話だと思います。失業というのは人間の尊厳を奪うものです。社員の方、パートの方も自分の人生をかけてその企業に来てくださり、人生の一時期を過ごしたわけですから、自分の会社は何をやったらいいか、時代をよくみて、どんどん仕事をつくり出し、お金が落ちている所をさがすのが社長の仕事だと思います。

水谷： そういう点では、うずもれている人材はいっぱいいますね。

林： いっぱいいますね。やる気のない人は早く撤退して楽に過ごしてもらおう。特に経営者の方でやる気のない方ですね。やめたいなと思ったら早くやめて、違う方にゆずってほしいですね。

水谷： 一方で、やる気があるのに、探す力があるのに出てこられない人もいますよね。

林： いますね。特に女性の方ですね。女性の方は優秀ですね。それから 60 歳をすぎた方ですね。元気な方はたくさんいますから、是非そういう方が活躍できる場を栃木県でもつくって頂きたいと思います。

水谷： 男とか女とか年齢などには関係ないですね。

林： 関係ないですね。あとは、外国の方もそうですね。日本で働いてもいいという人は、どんどん来ていただいて働いてもらえば、少子・高齢化なんてふっとんでしまう。

2025 年、国連の予測では、人口が 20 億人増えて 80 億になります。そうになると、日本で働きたい人も大変増加すると思います。日本の少子・高齢化などは、外国の方が日本で働けるようにと考慮さえしていけば、解決していくと思います。外国から栃木県、日本に来て頂いて、今から働きやすい、住みやすい環境をつくるのが大切です。

水谷： そういう発想がある人であれば、60 歳以上の方でも。普通は 60 歳と言えば定年ですが。

林： きんさん、ぎんさんだって 100 歳でデビューしたわけですから、100 歳からデビューしてもいいわけです。

水谷： NHK にも要望があるとお聞きしておりますが。

林 : 是非、このスタジオで、せっかくNHKさんはFM波がいっぱいあるのですから、24時間とは言いませんが毎日放送していただきたい。そうすれば民間も頑張ります。競争がないと頑張りが足りなくなる。是非NHKさんも24時間放送を栃木県からやっていただけたらと思います。

水谷 : 最初は栃木県経済の活性化ということでお話をお伺いしましたが、栃木県にとどまらないということですね。

林 : そうですね。栃木県のことを考える時は、やはり、東京で物事を考えないといけないと思います。

足利のことを考える時はいつも宇都宮で考えます。栃木県のことを考えるときはいつも東京で考えます。日本のことを考える時はいつも外国で考えます。アジアのことを考える時はいつもヨーロッパやアメリカで考えます。そういうことだと思います。ですから、違う場所で物事を考えるくせをつけてもらえればと思います。そうすることにより、全然違う発想ができます。その場所にとどまらない方がいいです。だから経営者の方やリーダーの方は、その場所にいなくて、仕事は社員の方にまかせて、違う場所で客観的に考える。栃木県の将来は日本をみればわかります。日本の将来は外国に行けばわかります。いつもいつも違う場所で、もとのことを考えるくせをつけると良いと思います。

水谷 : そのために、林さんはこれから東京に行くわけですね。ほとんど毎日東京に行っているのですか？

林 : ほとんど毎日行っていますね。足利、宇都宮、東京をぐるぐるまわっています。

水谷 : そういった所から栃木県を見ているわけですね。さらに海外から日本を見ているということですね。今日はありがとうございました。

林 : 是非、みなさんやる気になって下さい。特に経営者の方や県幹部、市町村幹部の方、やる気になって県民や社員を引っ張って行って下さい。お願いします。